

経営協議会（第3回）議事要録

日時	平成30年11月28日（水）午前10時38分～午後0時05分
場所	中会議室
出席者	学長、遠藤、武田、田村、松本、前田、宮内、岡、松岡の各委員
欠席者	佐々木、瀬戸、野中、中地の各委員
配付資料	資料1「本学の改革に係る戦略推進本部での検討状況等について」 資料2「平成29年度業務実績に関する評価結果について」 資料3「平成29事業年度財務諸表の承認について」 資料4「財務レポート2018について」 資料5「平成30年度補正予算配分方針について」 資料6「2021年度宮城教育大学入学者選抜（2020年度実施）について（予告）」 資料7「平成30年人事院勧告に伴う本学役職員の給与の取扱方針（案）について」 参考資料「国立大学法人宮城教育大学2018概要」 参考資料「宮城教育大学 大学案内2019」 参考資料「国立大学法人 宮城教育大学大学院教育学研究科2019年度案内」

学長挨拶

学長から、開催にあたり挨拶があった後、議事に先立ち、前回経営協議会以降の本学の状況について報告があった。

議 事

○議事要録の確認

6月25日（月）開催の経営協議会（第2回）の議事要録は、原案どおり確認した。

○ 報告事項

1. 本学の改革に係る戦略推進本部での検討状況等について

学長から、概要説明の後、財務担当理事から、配付資料1に基づき本学の改革に係る戦略推進本部での検討状況等について報告があった後、意見交換を行ったところ、次の意見等があった。

- ・改革のプロセスを学生や外部にも見える形で発信する必要がある。
- ・一法人一大学を守ってほしいが、一番問題なのは就職状況。また、入学時から教員になる気のない者をなぜ入学させているのかとすることがある。
- ・宮城教育大学では、高大連携が重要になってくるだろう。「こういう改革をするから、うちの大学に來い」というやり方だと消費者意識を招くことになるが、「一緒にやろう」という事を打ち出せば変わってくる。高校生に本学を知ってもらう場に、カリキュラムを編成する大学教員も同席すべきではないか。
- ・教科を統合して教員養成を行っていくのは当たり前ではないか。日本の企業の研究者が個別分野の蝸壺型になっていることは学校教育が影響しているのではないか。
- ・成績は少しくらい悪くても教職への意欲が高い者を入学させるべきではないか。
- ・教員就職率75%が果たして実現できるのか。「教員になるつもりが無い者は要らない」という意識は大学にあるのか。少なくとも高校の現場には伝わっていないのでは

ないか。

- ・東北地区の各大学で特定教科の免許状を出さなくなっていると聞くが、大学間で相談がなされているのか。役割分担が様子見でやられているのであれば危ういのではないか。
- ・人口減だからこそ教師が必要。イノベーションは教育だということを大学は主張すべきではないか。

2. 平成29年度業務実績に関する評価結果について

総務担当理事から、配付資料2に基づき国立大学法人評価委員会からの評価結果について報告があり、11教育大学の評価結果について併せて報告があった。

3. 平成29事業年度財務諸表の承認について

財務担当理事から、配付資料3に基づき文部科学大臣から財務諸表について承認された旨、報告があった。

4. 財務レポート2018について

財務担当理事から、配付資料4に基づき財務レポート2018の作成について報告があった。

5. 平成30年度補正予算配分方針について

財務担当理事から、配付資料5に基づき平成30年度補正予算配分方針について報告があった。

6. 2021年度宮城教育大学入学者選抜（2020年度実施）について（予告）

学務担当副学長から、配付資料6に基づき大学入学共通テスト導入に伴う本学の入試選抜方法の変更内容予告案の内容について報告があった後、種々意見交換を行った。

7. その他

なし

○ 審議事項

1. 平成30年人事院勧告に伴う本学役職員の給与の取扱方針（案）について

議長から、概要説明の後、総務課長から、配付資料7に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

2. その他

なし

以上